



show コマンドライン インターフェイス

この章では、Cisco show コマンドの概要を説明します (P.17-2 の「[show コマンドの構文](#)」を参照してください)。

コマンドライン ツール **show** は、Cisco CallManager のコンフィギュレーション データベース、コンフィギュレーション ファイル、メモリ 統計、および Windows 診断情報の内容を表示します。

show コマンドの構文

show ツールを使用するには、Cisco CallManager をインストールする必要があります。**show** コマンドは、DOS シェルから実行します。出力データは、コンソールに表示することも、テキストファイルに保存することもできます。



(注)

show コマンドは、\Temp ディレクトリ内で出力用の一時ファイルを使用するので、この一時ファイルを保存するディスク スペースに十分余裕があることを確認してください。ディスク スペースの必要量はさまざまな要素によって決まります (たとえば、ユーザ数、使用するデバイス数、システムが使用するデータベースのサイズなど)。

もう 1 つの方法として、**show.exe** は、Telnet サーバソフトウェアが使用可能な場合にその Telnet セッションから実行することもできます。

show.exe のファイルは、Program Files\Cisco\Bin のディレクトリに格納されています。

show コマンドの構文は、次のとおりです。

```
show [-f <filename>] [-c <column width>] [-w <console width>] [-v] [command parameter]
```

参考情報

関連項目

- 『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』の第 30 章「show コマンドライン インターフェイス」

参考資料

- Cisco CallManager トラブルシューティング ガイド